



地震！ホールの中の「安全」は？

4月14日夜、熊本地方に震度7の大地震が発生し、その後頻発した大きな余震（2度目の震度7クラスが本震という発表もありました）と合わせ、九州で多くの方が犠牲になりました。4月下旬現在、まだまだ各地で沢山の方が避難生活を強いられている様子が報じられており、改めてご冥福そしてお見舞いを申し上げます。

ちょうど5年前に東日本大震災が発生した時、私は都内で大きな横揺れに襲われました。長時間の揺れに生きた心地がしなかったばかりでなく、その後何度か震度3～4クラスの余震が頻発したのにも、大変な恐怖を感じたものです。

そうした体験もあったため、今回の熊本では震度7の直下型地震に続いて震度6クラスの揺れが頻発していると聞き、現地の方々が大変な恐ろしい体験をされているかを思うと、胸が締めつけられるようでした。もし自分がそういう場面に遭遇したら、泣いたり叫んだりしてしまうかもしれません。

気象庁によると、今回の地震は「布田川断層帯」のずれにより生じたもので、被災者の分布図と合わせると、確かに大分県にかけての線に沿って多く発生しています。さらに、研究者によっては今後数か月に渡って余震だけでなくさらなる

「本震」が起こる可能性や、今回の震災によって他の活断層にも影響が及び、首都圏などでも大きな地震が起こる可能性を唱える方もいて、改めて“地震大

国”日本の住民として、身震いするような思いがしました。

そしてこういう大きな地震が起こるたび、気になるのは「パチンコを打っている最中に遭遇してしまったら、どうなるのだろうか？」ということです。台にはガラスや玉といった、割れたり飛び散ると危険なイメージの部品が多数使われていますし、島が倒れて下敷きになってしまわないかも心配です。

東日本大震災や今回の熊本地震のニュースを報じる画面には、前者では津波も襲ったためか、島ごとめちゃくちゃになったホールの様子があり、後者では、床には玉やメダル、箱などが散乱しているのが見えました。

私たちファンが知りたいのは、ホールで地震に遭遇してしまったらどうしたらいいのか、ということだけでなく、島や設備の堅牢度、そして従業員が非常時に備えて訓練されているか、ということです。

東日本大震災の後には、業界団体や個々のホールによる義援活動やボランティアなどの様子がしきりに発信されていました。節電に関連して、当時急ぎよ行っていた「輪番休業」においても、足並みを揃えた動きが印象的であったと思います。それらに加えて、打っている時に地震に遭ったらお客はどうしたらいいのかなど、より具体的な説明や取り組みを発信されていくことが、重要ではないかと思っています。

私を含むパチンコファンがより安心して遊ぶことができるよう、例えば対震度（島構造はどれぐらいの地震まで耐えられるか）や避難ルートの有無、従業員教育の内容といった、より具体的な内容について業界団体が数値化したりお墨付きを設けるような試みを始めてみてはいかがでしょうか？業界側の団結が、イメージアップにもつながっていくのは間違いありません。

じんぼう・みか

法政大学卒業後、文具メーカー勤務を経て業界誌記者となり、1993年独立。取材記事、コラムなど連載。近著「パチンコ年代記」（バジリコ、07年）



2011年の輪番休業のように分かりやすい発信が求められます